

事業報告

令和4年度 新任社会教育行政職員・新任社会教育主事研修会

日時：令和4年6月3日（金）10:20～16:00

会場：大分県立図書館 視聴覚ホール 参加者：30名

（市町村22名、県：8名）

<研修趣旨>

新任の社会教育行政職員として生涯学習・社会教育に関する基礎的・基本的な知識を習得するとともに、業務遂行に必要な人的ネットワークづくりやスキルアップを図り、社会教育行政職員および社会教育主事としての使命と役割を理解する。

<研修内容>



【開会行事】開会あいさつ
大分県立図書館 館長 宮迫 敏郎



【研修1】講義：「生涯学習・社会教育の現状と行政職員への期待」
講師：大分大学教育マネジメント機構基盤教育センター教授 岡田 正彦 氏

【研修1】講義：「生涯学習・社会教育の現状と行政職員への期待」

講師：大分大学教育マネジメント機構基盤教育センター教授 岡田 正彦 氏

社会教育行政職員の職務と社会教育・生涯学習の現状、職務遂行における考え方等について講義。

【研修2】講義：「社会教育に求められている役割と自分がやらないといけない・やりたい仕事」

講師：大分大学教育マネジメント機構基盤教育センター教授 岡田 正彦 氏

前半は中教審答申に見る現時点での社会教育の課題。後半はワークシートを用いて、視聴覚ホール内でグループワークを実施。



【研修2】視聴覚ホールでの様子

【研修3】ワークショップ「現在の業務上の課題とやや大きな視点での展望 (やりたいこと、社会的インパクト)」

＜「事前学習ワークシート」の内容＞ 以下を事前に考えて持参

1. 今担当している（これから担当する）業務に関して課題と感じていることは何ですか？その課題に対してどのように対応して解決するか処方箋はありますか？
2. 社会教育行政事業の有限な教育資源（予算、人材、ネットワークなど）を用いて、中長期的にどのような取り組みを行いたいと思いますか？実現可能性にあまりこだわらず、あなたが本音でやりたいこと、やる価値があると思うことをご記入ください。
3. 社会教育行政事業単独では、なかなか地域や社会を変えるほどのインパクトを生み出すことは難しいと考えられます。そこで、どのような主体と連携・協働することで、これまでは存在しなかった新しい機能や仕組みを生み出そうと思いますか？



ワークショップ
講師：大分大学教育マネジメント機構基盤教育
センター教授 岡田 正彦 氏

＜参加者感想＞

- 岡田先生の講義がわかりやすく、今後の業務の心構えの方向性が見えてきたと思います。
- 職員の皆様は常に忙しく、一人で抱え込みながら、自分の担当の講座や行事等の業務をこなす日々に、不安や疲労がいつもあります。岡田先生のおっしゃる通りの現実に大きく共感します。職員同士のミニミーティングはとても重要であると思います。
- 市役所の勤務で、今まで認知症支援、観光、そして今回社会教育と業務を行ってきましたが、どの部署もルールや正解のない仕事が多かったので社会教育という部署も似たような所があると感じました。各部署（団体）との連携という点は社会教育でも大切であると感じた。
- ワークショップでは他の市町村の課題等を聞いてよかったです。
- 座席で講義のメモ要点を書くのは大変。会場の配慮を次回以降検討してほしい。講義がすばらしくても集中しにくかった点です。ワークショップは隣の班と近く、協議しづらかった。次回以降改善してほしい。→それほど意見交換は重要ということに気がついたところです。限られた時間の中、事前学習は良いと思います。今後とも県内の自治体担当者研修の計画・実施をよろしくお祈りします。
- ワークショップはとても楽しかったですが、やや音声が聞こえづらかった。集まって議論できるようになったのは良いな、とつくづく思いました。